2023年 3月期　第3四半期
決算説明資料

株式会社　浅　沼　組
東証プライム市場
証券コード：1852

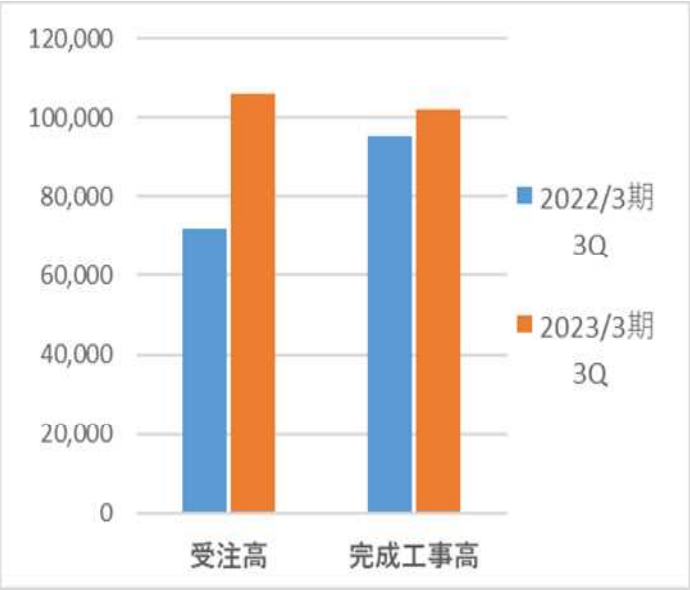
目次

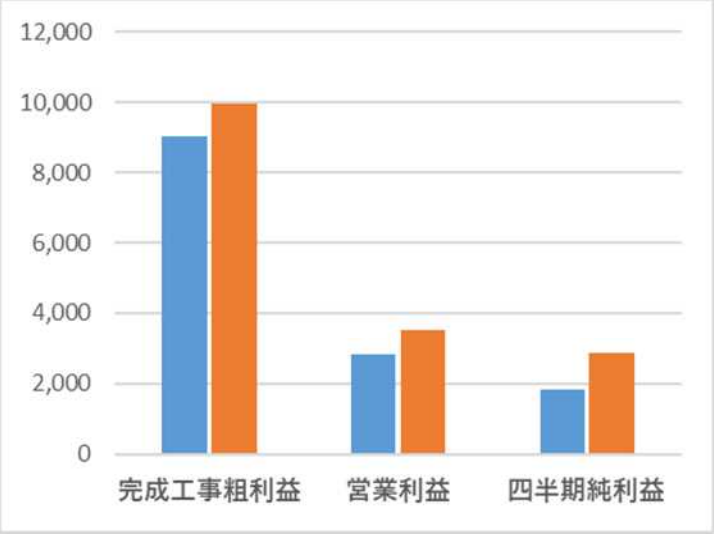
ページ	項　　目
P 3	2023年3月期 第３四半期 連結業績
P 4	2023年3月期 第３四半期 連結進捗
P 5	2023年3月期 第３四半期 受注状況
P 6	中期３ヵ年計画の主な施策
P 7	リニューアルの現況
P8	『ReQuality』の推進
P9	リニューアル技術の高度化
P 10	ASEAN地域におけるリニューアル強化
P 11	サステナビリティの推進
P 12	Topics

2023年3月期 第３四半期 連結業績

（単位：百万円）

主な経営指標	2022/3期	2023/3期	
	３Q実績	３Q実績	前期比
受注高	72,098	**105,807**	33,709
完成工事高	95,455	**102,155**	6,700
完成工事粗利益	9,021	**9,953**	931
完成工事粗利益率	9.5%	**9.7%**	0.2P
営業利益	2,812	**3,517**	704
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,827	**2,867**	1,040



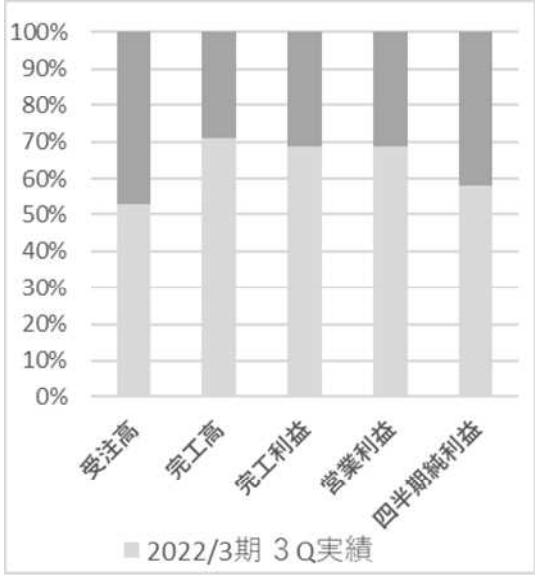


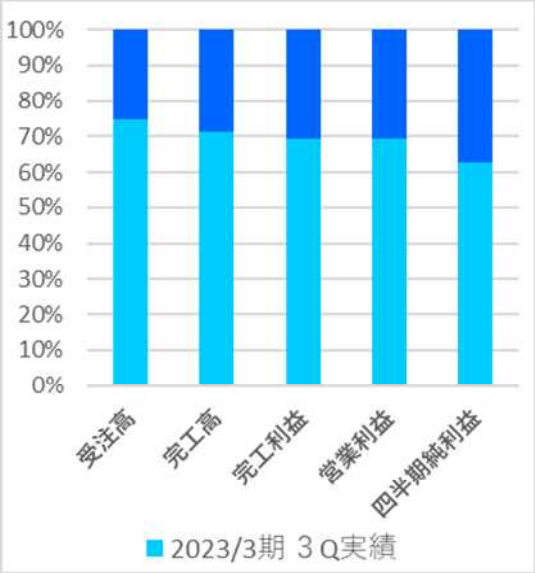
2023年3月期 第３四半期 連結進捗

（単位：百万円）

主な経営指標	2022/3期			2023/3期		
	３Ｑ実績	実績	進捗率	３Ｑ実績	計画	進捗率
受注高	72,098	136,568	52.8%	**105,807**	141,600	74.7%
完成工事高	95,455	134,407	71.0%	**102,155**	143,300	71.3%
完成工事粗利益	9,021	13,136	68.7%	**9,953**	14,340	69.4%
完成工事粗利益率	9.5%	9.8%	—	**9.7%**	10.0%	—
営業利益	2,812	4,835	58.2%	**3,517**	5,610	62.7%
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,827	3,748	48.7%	**2,867**	4,120	69.6%
配当（配当性向）	—	363円（78.1%）	—	—	*191円（74.8%）	—

＊弊社は、2022年8月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っており、2023年3月期の1株当たりの配当予想については、当該株式分割後の金額を記載しております。





2023年3月期 第３四半期 受注状況

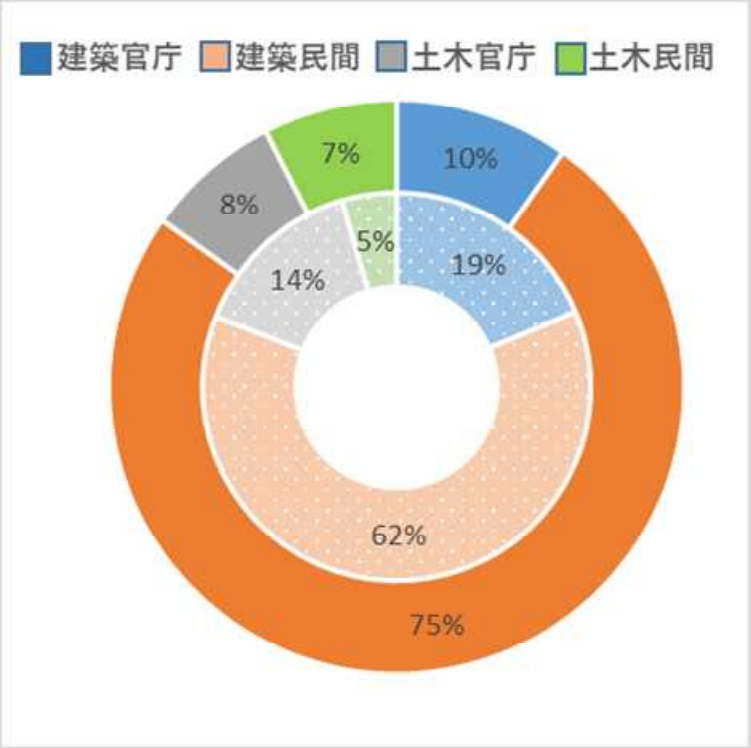
（単位：百万円）

		2022/3期	2023/3期	
		３Q実績	３Q実績	前期比
淺沼組	建　築	56,998	**83,583**	26,584
	官庁	13,123	**9,675**	△3,447
	民間	43,875	**73,907**	30,032
	土　木	13,408	**14,942**	1,533
	官庁	10,210	**7,521**	△2,688
	民間	3,198	**7,421**	4,222
	建土計	**70,407**	**98,526**	**28,118**
	官庁	23,333	**17,197**	△6,135
	民間	47,074	**81,328**	34,254

海外子会社　計	1,690	**7,293**	5,603

連　　結	72,098	**105,807**	33,722

※連結調整後



円グラフ：個別受注状況
外側：2023/3期
内側：2022/3期

中期３ヵ年計画の主な施策

Asanuma

― 基本方針 ―　浅沼組らしさ(独自性)を深耕させ「変化に挑戦」

外部環境変化への挑戦	★ 長期的に縮小する国内建設投資とインフラ・建築構造物の老朽化により堅調に推移する国内維持・修繕事業投資
	1. 『ReQuality』リニューアルブランド戦略の推進 2. リニューアル技術の高度化 3. ASEAN地域におけるリニューアル強化
	★ 建設分野における生産労働人口の減少
	1. 協力会社との協働推進 2. ＤＸ推進
	★ 非財務経営活動(ＥＳＧ・ＳＤＧｓなど)による企業評価向上の機運
	1. エコフレンドリーASANUMA21の推進 2. サステナビリティの推進

リニューアルの現況

目標	2024年3月期に建築リニューアルの営業利益を連結営業利益の35％に

建築リニューアル　計

（単位：百万円）

	2022/3期	2023/3期	
	３Q実績	３Q実績	前期比
営業利益シェア	32.3％	30.4％	△1.9P

＊第３四半期の算出よりASEAN子会社ののれん償却費を含む

国内　建築リニューアル

受注高	12,382	14,887	2,504
完成工事高	12,142	11,455	△687
営業利益	928	285	△642
営業利益シェア	33.0％	8.1％	△24.9P

ASEAN　建築リニューアル

受注高	1,690	7,293	5,603
完成工事高	1,282	7,496	6,213
営業利益	0	1,058	1,057
営業利益シェア	0.0％	30.1％	30.0P

『ReQuality』の推進

名古屋支店改修PJ

環境に寄り添いながら、健康で快適なオフィス空間

建物の利用者の健康や快適性を評価する
「**WELL認証 ゴールド**」を取得
（築30年のオフィス全体の改修での
認証取得は日本初）

循環型の環境配慮ビルとして長期的な視点を
もったデザイン

グッドデザイン・ベスト100に選出
（主催：公益財団法人日本デザイン振興会）

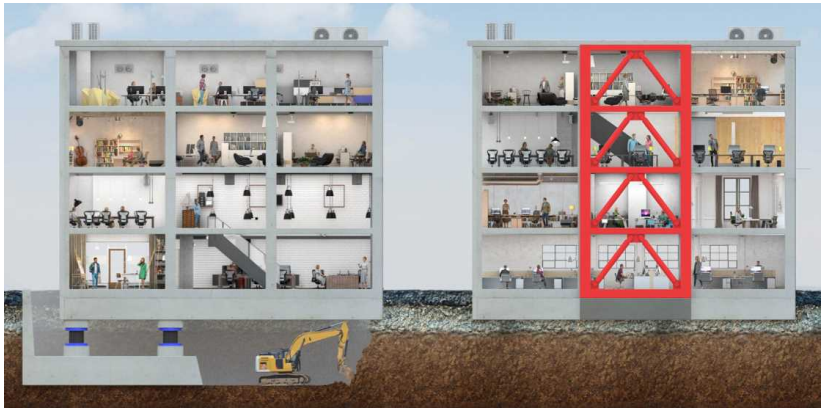
その他　受賞一覧
- **crQlr Awards（サーキュラー・アワード）2022 アーバニズム賞**
- **Sky Design Awards　建築部門Silver賞**
- **第１回SDGs建築賞　準グランプリ**
- **中部建築賞**

リニューアル技術の高度化

耐震補強提案

○免震や制振構造に改修

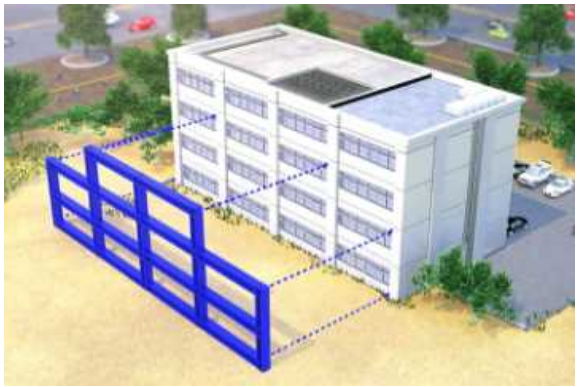
建物の使用を継続しながら施工が可能



免震ダンパーによる補強　　制振構造による補強

○自由度の高い耐震工事

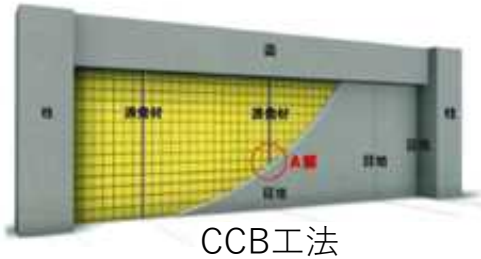
建物の外壁から補強する工法で建物の用途に合わせた施工が可能（フィルフレーム工法）



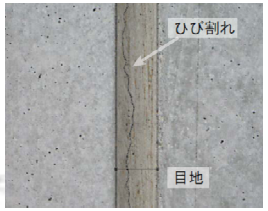
長寿命化による低炭素化へ

○長寿命化のための技術力

・コンクリートのひび割れを制御（目地へ誘発）し、壁面や床面にひび割れを起こさせずきれいな状態を保存でき、長寿命化に寄与（CCB工法）



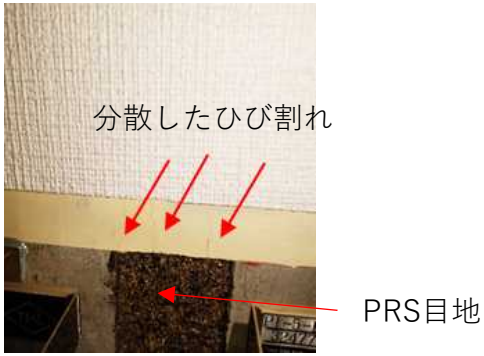
CCB工法



床CCB工法

・CCB工法を適用した壁面の目地にひび割れを分散させる材料（PRS）を充填し、壁面に貼った壁紙へのしわを最小化

PRS 目地充填工法



PRS 目地充填材

ASEAN地域におけるリニューアル強化

（単位：百万円）

海外子会社の現況

シンガポール

名　称	取得	事業内容	2023/3期　３Q実績		
			受注	完工高	営業利益
SINGAPORE PAINTS & CONTRACTOR PTE. LTD.	2018年10月	建物塗装・修繕工事	3,410	2,398	30
EVERGREEN ENGINEERING &CONSTRUCTION PTE. LTD.	2022年1月	建物メンテナンス 電気・設備工事	3,883	5,098	1,028

タイ

JICA（国際協力機構）SDGsビジネス支援事業
普及・実証・ビジネス化事業の進捗について

株式会社淺沼組、東レ株式会社、東レインターナショナル株式会社にて、炭素繊維シートによる橋・高架橋の補強事業を推進中

・2021年にJICA SDGsビジネス支援事業に採択。2023年1月に事業の契約を締結。
・現在、タイ国運輸省道路局所管の橋・高架橋の補強工事の施工を弊社子会社にて準備中。

サステナビリティの推進

Asanuma

「サステナビリティ推進委員会」の主な取り組み

① 環境経営推進に向けた取り組み

環境経営検討ワーキンググループを設置し技術面から検討
技術発表会での「環境技術賞」創設

② ＴＣＦＤ（気候関連財務情報開示タスクフォース）関連活動の推進

気候変動関連の中長期的目標
原単位目標に総量目標を追加

③人権方針、調達方針策定

サステナビリティ基本方針に加え、人権方針、調達方針を策定し、HPに開示

④パートナーシップ構築宣言

取引先や価値創造を図る事業者との連携・共存共栄を進め、新たなパートナーシップを構築することを、「発注者」側の立場から宣言。

パートナーシップ構築宣言

⑤その他の検討課題

サステナビリティ経営における「KPI」並びに、人的資本に関する施策の策定に向けた検討

協力会社と「協働」

浅沼組

浅沼組は10月28日、「協力会社協働による作業所生産性向上策の表彰式・発表会」を開いた。各作業所から広く募集した生産性向上策の中から、社員投票と審査によって選ばれた「社長賞」3件と「優秀賞」2件を表彰。受賞事例5件の発表もあった。

表彰式・発表会に先立ち、同社生産性向上委員会の高見錦一副委員長は「この発表会をきっかけに今後も知恵を出し合い、より多くの生産性向上策や創意工夫を集めていきたい」と協力会社との協働の重要性を改めて訴えた。

この取り組みは、協力会社で構成する「弥生会」との定期的な意見交換会から生まれた取り組みの一つで、ことしで4回目となる。

受賞事例は次のとおり。

〈社長賞〉

▽駅構内におけるかみ合わせ鋼板使用と鋼板の分割及び運搬の工夫＝JR大阪耐震R2作業所（ボンドエンジニアリング）▽高さ9㍍の大断面SRC柱躯体工事の工期短縮と作業効率UP＝（仮称）センコー株式会社湾岸弥富PDセンター新築工事作業所（吉重組）▽地中障害撤去とアースドリル杭の同時施工による生産性向上＝（仮称）上野二丁目ホテル計画新築工事作業所（東洋テクノ）。

〈優秀賞〉

▽メインアリーナ置構台設置（揚重機の軽減）＝（仮称）菊陽町総合体育館新築工事作業所（ジェコス）▽高層マンションのMB内配管支持について＝タワー・ザ・ファースト伏見（R3）作業所（稲垣設備工事）。

2022/11/8　日刊建設通信新聞

DX活用モデル初弾

使用5技術が決定

四国整備局 23年3月に現地見学会

四国地方整備局の建設DX技術活用モデル（選択肢型）工事の初弾となる「令和4年度今治道路五十嵐高架橋下部P47－P49工事」で使用する技術が決まった。施工を担当する白石建設工業が日本建設業連合会（日建連）インフラ再生委員会の「建設DX事例集」から選んだ。日建連が現場条件に適している技術かどうかや使用したい時期に支援可能かどうかなどを確認。四国整備局と白石建設工業の3者で調整を行い、5技術をマッチングさせた。

選定した技術は鹿島の「AI配筋検査システム」と清水建設の「リアルタイム自動配筋検査システム」、不動テトラの「点群データを活用した構造物の施工管理」、三井住友建設のリアルタイム鉄筋出来形自動検測システム「ラクカメラ」、淺沼組の「VRによる安全教育訓練」。

工事場所は愛媛県今治市。別名。高さ12㍍の橋脚3基を設置する工事で、径1・5㍍の基礎工を24基施工する。現場条件や納期に問題がなく活用できるとして、橋脚1基ごとに鹿島と清水建設、三井住友建設の技術をそれぞれ試行する。

不動テトラの技術はP47橋脚で試行する。橋脚完成後にヒートマップを作成でき、躯体表面の出来栄え評価など出来形管理への活用が期待できるという。

現場のVR（仮想現実）モデルを作成し、足場設置などの安全教育訓練に役立てる淺沼組の技術は、モデル作成に時間を要するため、今回は一般的なVRモデルを提供してもらい、安全教育訓練に活用する。

各技術は2023年2月上旬から順次現場で使用する。四国整備局は同3月上旬をめどに現地見学会を開催する予定だ。地域の建設業をはじめ、周辺の高校生や技術系大学生、小中学生とその保護者にも声を掛ける。企画部技術管理課の水野臣洋課長補佐は「建設業は大きな転換期を迎えていると知ってもらい、最新技術を使用することでインテリジェンスで安全な建設業となることをしっかりとアピールしていきたい」と見学会開催に意欲を見せる。

「建設DX技術活用モデル（選択肢型）」の試行工事は四国整備局独自の施策で一般土木C等級を対象としている。特記仕様書で日建連インフラ再生委員会の「建設DX事例集」に掲載された技術を推奨事例として紹介。受注企業がその中から1技術以上を選び現場に導入する。機械賃料やシステム構築費など必要な追加費用は変更契約できる。地域建設業で課題となる生産性向上を後押しするとともに、業界の魅力を高め担い手の確保につなげる。

使用する5技術

DX事例集番号	会社名	事例名	事例集掲載ページ
29	鹿島	AI配筋検査システム	57
42	清水建設	リアルタイム自動配筋検査システム	83
71	不動テトラ	点群データを活用した構造物の施工管理	141
74	三井住友建設	リアルタイム鉄筋出来形自動検測システム「ラクカメラ」	147
82	淺沼組	VRによる安全教育訓練	163

2022/12/22　日刊建設工業

浅沼組 ASEANリニューアル事業戦略

インフラ補強事業を推進

東レの炭素繊維シート駆使

途上国の課題解決に役立つ技術や製品、ノウハウを活用したビジネス展開を目指す、国際協力機構（JICA）の「SDGs（持続可能な開発目標）ビジネス支援事業」の採択プロジェクトとして、戦略的なビジネスモデルの構築を進める。

技術・製品の活用可能性を検討する「案件化調査」に続き、2021年4月から次のステップとして「普及・実証・ビジネス化事業」へと移行。取り組みの一つとして、22年12月から25年1月末までを期間に橋・高架橋の補強事業を進めていく。

炭素繊維シートを使った補強工事サイクルの延命化（長寿命化）によってライフサイクルコストを抑制を図る一方で、タイ政府の「メンテナンスマニュアル」の作成にも協力するという。

同社は21年6月にタイで道路や橋梁のメンテナンス事業を展開するための新会社「Thai Asanuma Holdings」を設立。東レの炭素繊維シートを使って、急速に進展するインフラ老朽化の課題に向き合う。

これまで培ってきた炭素繊維シートによる補強技術を駆使して、今後のニーズの広がりも期待できるインフラの補修・補強を実践していくことで、タイだけでなく、同様の課題を持つ周辺各国へのビジネス展開を目指す。

ASEAN（東南アジア諸国連合）地域でのリニューアル事業の推進に力を入れている淺沼組は、東レが提供する炭素繊維シートを駆使したインフラの補強事業に取り組む。

老朽化が進む高速道路や橋梁などインフラの劣化問題を解決していくことが狙い。タイを一つのターゲットにして、同様の課題を抱えている周辺各国へのビジネス展開を進める方針だ。

ASEAN地域でのリニューアル事業戦略の一環として、タイにおける「長寿命化を可能にする炭素繊維シートによるインフラ補強の普及・実証・ビジネス化事業」の推進に取り組む。

2023/1/20　日刊建設通信新聞

株式会社浅沼組

2023年3月期　第３四半期

お問合せ先
コーポレート・コミュニケーション部
Tel　06-6585-5500　　Fax　06-6585-5556
Mail　asanuma_ir@asanuma.co.jp